

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
分担研究報告書

フランスの医師配置等に関する研究

研究代表者 小林廉毅 東京大学大学院医学系研究科・教授  
研究分担者 八木聰明 人間環境大学・学長  
研究協力者 奥田七峰子 日医総研・フランス駐在研究員

研究要旨

今後のわが国の医師需給に関わる政策の基礎資料とするため、フランスにおける医師配置の仕組み等について情報収集と分析を行った。フランスでは、診療科別医師数について、医学部卒業時点の医学生に対して全国選抜試験に実施し、卒業後に各診療科の専門研修に進む医師に定員枠を設けることで、将来の専門医数を調整していた。一方、全国選抜試験では、成績順に診療科が選抜されることから、人気のある科に成績上位者が集まることと、人気のない科で定員割れが起きることが問題と考えられた。

A．研究目的

わが国における全体の医師数は増えている一方で、医師の地域偏在・診療科偏在については、近年の医療をめぐる重要な課題となっている。現在行われている医師確保対策の効果や評価については、今後検証されていくであろうが、他国における医師配置の仕組みを調査分析し、今後のわが国の医師需給に関わる政策の基礎資料とすることも重要である。本研究では、わが国と同程度の医師養成の仕組みを有するフランスにおける医師配置の仕組み等について情報収集と分析を行う。

B．研究方法

フランスの医師配置等に関する国内外の既存の文献等を調査して情報を整理する。また、フランスにおける医師需給等に関わる状況に詳しい専門家を対象に聞き取り調査を行う。具体的な調査・検討項目は以下のとおりである。

- (1) 医師養成に関わる制度上の位置付け
- (2) 地域・専門診療科ごとの定員の有無
- (3) 医師配置の調整にかかる実施主体

(4) 医師の労働時間

(5) 医師に対するインセンティブ

(6) 地域偏在・診療科偏在の状況

(7) 医師配置の調整による効果、課題等

（倫理面への配慮）

国内外における既存の文献・資料等を調査し、整理・分析するものであり、個人情報を含まないことから、特段の倫理的な配慮は必要ないと考えられる。

C．研究結果

文献等の調査及び専門家からのヒアリングにより、以下の結果を得た。

(1) 医師養成に関わる制度上の位置付け

医師養成ならびに専門医養成については、国の法律で定められている（引用文献）。

(2) 地域・専門診療科ごとの定員の有無

専門診療科の定員については、医学部6年次（最終学年）において実施される全国選抜試験において、専門科別定員枠が定められており、成績順に選抜される（添付資料「フランスにおける医学部教育制度」参照）。専門医の研修期間は科により異なる（3～5年間）。研修内容については、各

研修機関（大学など）の自主性に委ねられている。2015年時点の最終的な各専門科別の医師総数については、添付資料のアネックス4に掲載されている。

地域別の医師配置の調整や規制は、特に行われていない（引用文献）。

(3) 医師配置の調整にかかる実施主体  
全国選抜試験は、保健省と高等教育研究省が行う（引用文献）。

(4) 医師の労働時間  
フランスの勤務医就労時間は、週最高60時間と定められている（但し、例外的なやむを得ない重大な状況は除く）。また、1日の医療行為就労時間については、12時間以上24時間未満の医療行為就労後は、12時間継続しての休労義務がある。なお、上記は、全て勤務医に対してであり、科の部長および責任者の立場にある医師、軍医は除く。開業医も上記には当てはまらず、法規制はなく自由である。

(5) 医師に対するインセンティブ  
医学部2年生進級時から、奨学金を毎月需給することと引き換えに、受給学生は、国が定めた専門科・地域において、最低2年間あるいは受給期間と同等期間赴任する義務が生じるというインセンティブ制度（公的サービス契約（CESP：Contrat d'Engagement de Service Public））がある。

(6) 医師過剰あるいは医師偏在の状況  
医師全般に関する過剰問題は、現在起こっておらず、むしろ地域偏在があり、医師は不足しているのではないかという見解が主であった。特に、団塊世代が定年を迎える頃から医師不足が深刻化するのではないかという点と、女性医師が増えることによりフルタイム労働する医師が減るのではないかという点が懸念されていた。

(7) 医師配置の調整による効果、課題等  
専門診療科の医師定員に影響を与える全国選抜試験（専門科別）において、成績順に診療科が選抜されることから、人気のある科に成績上位者が集まることと、人気のない科で定員割れが起きることが問題とされている。

#### D．考察

フランスでは、診療科別医師数について、医学部卒業時点の医学生に対して全国選抜試験に実施し、卒業後に各診療科の専門研修に進む医師に定員枠を設けることで、将来の専門医数を調整していた。一方、全国選抜試験では、成績順に診療科が選抜されることから、人気のある科に成績上位者が集まることと、人気のない科で定員割れが起きることが問題と考えられた。

医師全般に関する過剰問題は、現在起こっておらず、むしろ地域偏在があり、医師は不足しているのではないかという見解が主であった。特に、団塊世代が定年を迎える頃から医師不足が深刻化するのではないかという点と、女性医師が増えることによりフルタイム労働する医師が減るのではないかという点が懸念されていた。

#### E．結論

フランスでは、医学部卒業時点の医学生に対して全国選抜試験に実施し、卒業後に各診療科の専門研修に進む医師に定員枠を設けることで、将来の専門医数を調整するという特徴があった。

（引用文献）

（社）日本専門医制評価・認定機構．平成22年度厚生労働省医療関係者研修費等補助金専門医制度推進支援事業・報告書．13-35頁、2011年

（添付資料）

奥田七峰子．フランスにおける医学部教育制度．2016年（本報告書に添付）

#### F．研究発表

1．論文発表  
なし

2．学会発表  
なし

G．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1．特許取得  
なし

2．実用新案登録  
なし

3．その他  
なし